

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
理学・作業名古屋専門学校	平成14年3月29日	澤口 彰子	〒460-0002 愛知県名古屋市中村区則武1-1-4 (電話) 052-454-3500																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人たちばな学園	平成3年9月24日	中島 範	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-6-4 (電話) 052-222-5631																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
医療	医療専門課程	作業療法学科	-	平成17年文部省 告示第百六十九号																							
学科の目的	急速な少子・高齢化の発展により、リハビリを必要とする高齢者は、今後ますます増えていくことで、医療と福祉の知識と技術を持ったリハビリスタッフの育成は、現代社会における急務の課題である。 本校の理学療法学科は、身体に障がいを持つ人に対し、チーム医療の一環として基本的身体動作能力の回復のためのリハビリテーションを行う理学療法士を育成する学科である。また、当学科では、理学療法に関するカリキュラムに加え、東京福祉大学 通信教育部 社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻にも同時入学し、社会福祉の専門知識や技術も身につけることができる人材を育成している。																										
認定年月日	平成 26年 3月 31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	4095時間	2550時間	600時間	945時間	-	-																				
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	95人	0人	6人	10人	16人																						
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率80%以上で本試験、65%以上で再試験を受験できる。成績は、期末試験以外に授業評価など含めて評価し、60点以上で合格して当該科目の単位を認定する。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	全15回の授業における出席率、期末試験および実習での評価を年度末の進級判定会議にて総合的に判断し、進級や卒業を決める。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者に対しては、学生本人および保護者へ連絡をとり、状況把握に努めている。また、必要に応じて個別および保護者を含めた面談を行い、今後の動向について相談・指導を実施している。		課外活動	■課外活動の種類 新入生を対象に1日マナーセミナーを実施 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 病院 ■就職指導内容 3年次に就職対策講座を開き、履歴書の書き方や面接試験の受け方等を指導している。また、4年次には個々に面接練習等を実施している。 ■卒業者数 13 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 69.2 % ■その他 ・進学者数: 0人		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士国家資格</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するものを記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士国家資格	②	13人	9人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
作業療法士国家資格	②	13人	9人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 3.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者85名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者82名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 退学の理由としては、精神的あるいは経済的な理由のほか、臨床実習で壁にぶつかり進路変更を希望するケースが見られた。 ■中退防止・中退者支援のための取組 出席率の悪い学生については、個別面談を通して、欠席や遅刻が多い理由を把握し、学業に専念できるよう、あるいは集中できるような環境作りを指導している。また、成績不良者については、個別面談を通して、学業不振の理由を把握し、解決策を考え、指導している。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 授業料免除特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.nagoya-college.ac.jp/welfare/subject/occupational.html																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																																							
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 リハビリテーションに対するニーズや期待が年々高まる一方、専門知識・技術の履修のみならず職業人として資質も求められており養成校の果たすべき役割はますます重要になっている。そこで、企業等との連携を深め、よりよい専門教育を遂行できるよう努めるべきである。																																																							
(2)教育課程編成委員会等の位置付け 年2回以上、教育課程編成委員会にて教育課程・授業科目等について意見交換し、そこで出された意見をまとめた事項を学校長に提言し、学校長または教育内容の必要性を精査し理事会の審議に付し、教育課程の編成にフィードバックさせる。																																																							
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 平成29年5月1日現在																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宮内公平</td> <td>医療法人康誠会 副理事長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>三輪大輔</td> <td>デイサービスセンター太陽・小牧 統括管理者</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>鈴木研</td> <td>並木病院 リハビリテーション科科长</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>中島範</td> <td>学校法人たちばな学園理事長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>長田泰彦</td> <td>学校法人たちばな学園理事・評議員、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校校長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>橋本寛</td> <td>学校法人たちばな学園理事・顧問・評議員</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>北川登</td> <td>社会福祉法人榎の木福祉会理事長、元東京福祉大学教授</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>吉野功</td> <td>元愛知県公立高等学校校長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>小林誠</td> <td>学校法人たちばな学園法人本部事務局長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>宮城淳弘</td> <td>学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課学科長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>荻巣史典</td> <td>学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課副主任</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>中山利徳</td> <td>東京福祉大学・大学院名古屋キャンパス入学課長</td> <td>平成28年4月1日～平成30年3月31日</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	宮内公平	医療法人康誠会 副理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	②	三輪大輔	デイサービスセンター太陽・小牧 統括管理者	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	鈴木研	並木病院 リハビリテーション科科长	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	中島範	学校法人たちばな学園理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	長田泰彦	学校法人たちばな学園理事・評議員、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	橋本寛	学校法人たちばな学園理事・顧問・評議員	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	北川登	社会福祉法人榎の木福祉会理事長、元東京福祉大学教授	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	吉野功	元愛知県公立高等学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	小林誠	学校法人たちばな学園法人本部事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	宮城淳弘	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	荻巣史典	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課副主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③	中山利徳	東京福祉大学・大学院名古屋キャンパス入学課長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③
名前	所属	任期	種別																																																				
宮内公平	医療法人康誠会 副理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	②																																																				
三輪大輔	デイサービスセンター太陽・小牧 統括管理者	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
鈴木研	並木病院 リハビリテーション科科长	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
中島範	学校法人たちばな学園理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
長田泰彦	学校法人たちばな学園理事・評議員、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
橋本寛	学校法人たちばな学園理事・顧問・評議員	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
北川登	社会福祉法人榎の木福祉会理事長、元東京福祉大学教授	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
吉野功	元愛知県公立高等学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
小林誠	学校法人たちばな学園法人本部事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
宮城淳弘	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
荻巣史典	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課副主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
中山利徳	東京福祉大学・大学院名古屋キャンパス入学課長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	③																																																				
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																																																							
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 年2回の開催を基本とする。 (開催日時) 第1回 平成28年12月19日 15:15～15:45 第2回 平成29年3月1日 15:00～15:30																																																							
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 次年度の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等に活用することを決定している。																																																							
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																																																							
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 臨床実習は医療・福祉分野の教育でも重要な位置を占めている。学校だけで学べる知識や技術はわずかなものであり、臨床の場で実際に学ぶことは学生にとって貴重な時間となっている。学生が「患者様から学ぶ」という基本的な心構えの育成を重視している。																																																							
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 多様な専門職に接したり、臨床実習指導者と接する中で、理学療法士の役割や機能を理解し、最終的に医療・福祉に関わる理学療法士としての専門性を身につける。																																																							
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見学実習</td> <td>病院・施設の組織機構を知り、多様な専門職に接することを通して、チーム医療やリハビリテーションにおける理学療法・作業療法の役割と機能を理解する。</td> <td>甲賀病院、花の丘ホスピタル、老健愛泉館、永井病院、老健ヴィラ 葵 等</td> </tr> <tr> <td>評価実習Ⅰ</td> <td>臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。</td> <td>デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等</td> </tr> <tr> <td>評価実習Ⅱ</td> <td>臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。</td> <td>デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等</td> </tr> <tr> <td>総合実習</td> <td>修得した知識・技術を臨床場面に応用し、臨床実習指導者の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の基本的理学療法・作業療法を実施できるようにすること。また、保健・医療・福祉に関わる理学療法士・作業療法士としての専門性を身につけること。</td> <td>西濃病院、小林記念病院、東可児病院、衣ヶ原病院、四日市羽津医療センター 等</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	見学実習	病院・施設の組織機構を知り、多様な専門職に接することを通して、チーム医療やリハビリテーションにおける理学療法・作業療法の役割と機能を理解する。	甲賀病院、花の丘ホスピタル、老健愛泉館、永井病院、老健ヴィラ 葵 等	評価実習Ⅰ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。	デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等	評価実習Ⅱ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。	デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等	総合実習	修得した知識・技術を臨床場面に応用し、臨床実習指導者の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の基本的理学療法・作業療法を実施できるようにすること。また、保健・医療・福祉に関わる理学療法士・作業療法士としての専門性を身につけること。	西濃病院、小林記念病院、東可児病院、衣ヶ原病院、四日市羽津医療センター 等																																					
科目名	科目概要	連携企業等																																																					
見学実習	病院・施設の組織機構を知り、多様な専門職に接することを通して、チーム医療やリハビリテーションにおける理学療法・作業療法の役割と機能を理解する。	甲賀病院、花の丘ホスピタル、老健愛泉館、永井病院、老健ヴィラ 葵 等																																																					
評価実習Ⅰ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。	デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等																																																					
評価実習Ⅱ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになること。	デイサービスセンター太陽・小牧、熊野病院、上伊那生協病院、伊豆函南病院、岩砂病院・岩砂マタニティ 等																																																					
総合実習	修得した知識・技術を臨床場面に応用し、臨床実習指導者の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の基本的理学療法・作業療法を実施できるようにすること。また、保健・医療・福祉に関わる理学療法士・作業療法士としての専門性を身につけること。	西濃病院、小林記念病院、東可児病院、衣ヶ原病院、四日市羽津医療センター 等																																																					

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針			
実習先のバイザーから、現場での学生指導内容を確認し、共通化を図る。共通した指導方針に基づいて、具体的な教員の授業、実技等の内容をバイザーと打ち合わせ、教員の資質を高め、授業の質の向上を図る。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
平成28年10月15日(土)と平成29年3月4日(土)にバイザーを本校に招き、話を伺い、研修を行なった。バイザーからは学生に直接指導もしていただいた。			
②指導力の修得・向上のための研修等			
全教職員に対するファカルティ・ディベロップメントの一環としてとしての模擬授業研修。			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
学生が実習に行っている全実習先に連絡を取り、期日を決めて本校に一齐に集まり、①見学・評価実習、②総合実習と目的別に行なう。			
②指導力の修得・向上のための研修等			
模擬授業研修の継続的実施。			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行なう。その際、学校関係者として企業等の役職者を参画させる。評価項目は「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目に対応させ、客観性・透明性を高めるよう努める。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		教育理念・目的・人材育成像	
(2)学校運営		学校運営	
(3)教育活動		教育活動	
(4)学修成果		学修成果	
(5)学生支援		学生支援	
(6)教育環境		教育環境	
(7)学生の受入れ募集		学生の受け入れ募集	
(8)財務		財務	
(9)法令等の遵守		法令等の順守	
(10)社会貢献・地域貢献		社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流		なし	
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
学校関係者評価の結果を持ってカリキュラム、特に臨床実習における取り組みを臨床現場に即した内容に出来る限り改善し、卒業後に即実践可能な人材育成に努めている。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年5月1日現在			
名前	所属	任期	種別
宮内公平	医療法人康誠会 副理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
三輪大輔	デイサービスセンター太陽・小牧 統括管理者	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
鈴木研	並木病院 リハビリテーション科科长	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
中島範	学校法人たちばな学園理事長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
長田泰彦	学校法人たちばな学園理事・評議員、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
橋本寛	学校法人たちばな学園理事・顧問・評議員	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
北川登	社会福祉法人榎の木福祉会理事長、元東京福祉大学教授	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
吉野功	元愛知県公立高等学校校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	企業等委員
小林誠	学校法人たちばな学園法人本部事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
宮城淳弘	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課学科長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
荻巣史典	学校法人たちばな学園評議員、理学・作業名古屋専門学校教務課副主任	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
中山利徳	東京福祉大学・大学院名古屋キャンパス入学課長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
水野靖廣	理学・作業名古屋専門学校 理学療法学科平成18年度卒業生	平成28年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
杉野潤也	理学・作業名古屋専門学校作業療法学科教員	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教職員
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) URL:https://www.nagoya-college.ac.jp/welfare/index.html			

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育理念に基づき行っている教育活動・学生支援等の実践内容を企業等の学校関係者に対し、分かりやすく情報提供する。その際、客観性・透明性を高めることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園の沿革、資格・就職
(2) 各学科等の教育	学科紹介、教育システム
(3) 教職員	学校パンフレット
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育システム
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育システム、校舎・施設
(6) 学生の生活支援	資格・就職(就職支援室のサポート)
(7) 学生納付金・修学支援	入学試験(学費について)、奨学金制度
(8) 学校の財務	決算書
(9) 学校評価	学校自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nagoya-college.ac.jp/welfare/index.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			人間関係学Ⅰ	医療従事者として人と接する時の心構えを学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			人間関係学Ⅱ	円滑な治療を行うために、人間関係を構築するスキルを学ぶ。	3前	30	2	○			○		○		
○			情報処理・統計学	日々進歩しているIT分野を自ら積極的に学び、活用できるよう基礎を学ぶ。統計処理を理解できるよう基本統計から有意差分析まで幅広く講義を行う。	2前	30	2	○	△		○		○		
○			保健体育（演習）	健康や安全に留意して実技を行う。	1後	30	1		○		△	○		○	
○			人間発達学	誕生から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期を経て、生涯を終える過程で生じる生理的、心理的発達について学習する。	2前	30	2	○			○		○		
○			医学英語	医療の場で必要な英文の論文や資料が読めるようになる。	2前	30	2	○			○			○	
○			表現法	正しい日本語表現について講義する。	1前	30	2	○			○		○		
○			生物工学	運動器の機能について工学的に解説する。運動器の特性、合理性について物理学、生物学的に理解を進める。	1前	30	2	○			○		○		
○			解剖学Ⅰ（講義）	解剖学の役割・解剖学の歴史・研究方法について学び、組織学、脈管学、内臓学(呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など)、感覚器学、発生学へと展開する。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ（演習）	解剖学の役割・解剖学の歴史・研究方法について学び、組織学、脈管学、内臓学(呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など)、感覚器学、発生学へと展開する。	1後	30	1	△	○		○			○	
○			解剖学Ⅱ（講義）	運動器の解剖、機能を理解し、臨床に生かせるようにする。	1前	30	2	○			○			○	

○		作業治療学Ⅰ (身体障害Ⅱ)(実習)	身体に障害を持った人に対する作業療法について学ぶ。	3 後	45	1	△	○	○	○								
○		作業治療学Ⅰ (身体障害Ⅲ)(実習)	身体に障害を持った人に対する作業療法について学ぶ。	3 前	45	1	△	○	○	○								
○		作業治療学Ⅱ (精神障害)(講義)	作業療法士の視点で評価ができるようになる。精神科領域のリハビリテーションについての総復習を行う。	3 前	30	2	○		○	○								
○		作業治療学Ⅱ (精神障害)(実習)	精神科作業療法の基礎に基づき、臨床の現実や応用を学ぶ。	3 後	45	1	△	○	○	○								
○		作業治療学Ⅲ (発達障害)(講義)	発達の過程について、項目ごとに講義する。また、発達障害領域の作業療法評価について、評価の流れ、評価の視点、具体的な検査法について講義する。	3 前	30	2	○		○	○								
○		作業治療学Ⅲ (発達障害)(実習)	各種疾患、それによる障害に対する発達領域での作業療法のアプローチについて講義する。発達領域における様々な介入場面について講義する。	3 後	45	1	△	○	○	○								
○		作業治療学Ⅳ (老年期障害)(講義)	高齢期の特徴について講義する。高齢者に対する作業療法について、評価、実践等について講義する。	3 前	30	2	○		○	○								
○		作業治療学Ⅳ (老年期障害)(実習)	老年期障害について、評価、問題点、ゴール、治療について講義する。	3 後	45	1	△	○	○	○								
○		基礎作業学 (講義)	作業療法士が治療手段として用いる作業活動について理解を深め、その活動を治療に利用するための知識を学びます。	1 後	30	2	○		○	○								
○		基礎作業学 (演習)	作業療法の一手段である作品作りを実際に体験しながら様々なことを学んでいきます。	2 前	30	1		○	○	○								
○		義肢装具学 (講義)	義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び、また、義肢を使用する切断患者のリハビリテーションや装具を使い、リハビリテーションの実際について学ぶ。	3 前	30	2	○		○									○
○		義肢装具学 (演習)	手装具、足底装具、短下肢装具を製作する。	3 後	30	1	△	○	○	○								
○		地域リハビリテーション学	地域とは何か、またその地域の中で理学療法士ができることは何か考える。	2 前	30	2	○		○	○								
○		生活環境論	暮らしやすい生活環境を考えるのに必要な、法制度、バリアフリー・ユニバーサルデザイン、および生活場面に応じた住まいの整備のための基本技術について講義する。安心して暮らせる街づくりに向けての取り組みについて講義する。	3 後	30	2	○		○	○								

○		見学実習	病院・施設の組織機構を知り、多様な専門職に接することを通して、チーム医療やリハビリテーションにおける理学療の役割と機能を理解する。	2 後	45	1			○	○	○	○
○		評価実習Ⅰ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになる。	3 後	135	3			○	○	○	○
○		評価実習Ⅱ	臨床実習指導者の下で、評価に関する知識、技術を用い、基本的な評価の実施から問題点の抽出ができるようになる。	3 後	135	3			○	○	○	○
○		総合実習	これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、臨床実習指導者の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の基本的作業療法を実施できるようになる。また、保健・医療・福祉に関わる作業療法士としての専門性を身につける。	4 前	630	14			○	○	○	○
○		文章表現	正しい漢字を使う習慣を身に付け、文章の表記規則を理解する。	1 前	30	2	○			○	○	
○		医学概論	医療、医学の知識の取得を目指す。生活習慣病をはじめとする保健医療について学習する。	1 前	30	2	○			○	○	
○		心理学概論	発達心理学領域の人間の発達段階に関する内容について理解を深める。人格の諸理論、感覚・知覚・認知の特質、発達障害に関する基礎知識を習得する。	1 後	30	2	○			○	○	
○		ソーシャルワーク演習Ⅰ	福祉専門職に求められる機能について理解する。福祉援助活動におけるその技術と方法について知る。福祉専門職者の倫理について学ぶ。	1 後	30	2	○			○	○	
○		ソーシャルワーク演習Ⅱ	社会福祉士に必要とされる資質・倫理について学ぶ。現代の福祉における個別的問題について考える。福祉専門職として自己覚知の重要性について知る。	1 後	30	2	○			○	○	
○		社会福祉入門	社会福祉の基礎について学ぶ。	1 前	30	2	○			○	○	
○		アメリカの文化と言語Ⅰ	アメリカの文化や社会の特徴を自分なりに理解し、自分にどのように関わるかを考察する。	1 後	30	2	○			○	○	
○		レクリエーションワーク	保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学習する。幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。	1 前	30	2	○			○	○	
○		ボランティア論	ボランティア活動の自主性とボランティア活動を推進するNPOの関係について学ぶ。	1 前	30	2	○			○	○	
○		福祉と教育	福祉と教育に求められる双方向のコミュニケーション能力のあり方について学ぶ。	1 前	30	2	○			○	○	

○		少年と犯罪	少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判所・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムについて理解する。	1 後	30	2	○			○	○		
○		法学Ⅰ（憲法）	自由権について理解する。憲法は、どのような内容で構成されているか把握する。憲法はわが国の最高法規であり、その成立背景を知る。	1 後	30	2	○			○	○		
○		ソーシャルワークⅠ	相談援助の概念と範囲、理念について学ぶ。他職種連携の意義について考える。専門職の概念と職業倫理について理解する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		ソーシャルワークⅡ	相談援助の方法・技術について理解する。援助の展開過程について学ぶ。	2 後	30	2	○			○	○		
○		ソーシャルワークⅢ	グループワークの展開過程について理解する。スーパービジョンの機能と重要性を知る。個人情報取り扱いにおける注意点を考える。	3 前	30	2	○			○	○		
○		社会保障論Ⅰ	社会保険の役割を知る。年金の仕組みを理解する。雇用保険の機能について考える。	2 前	30	2	○			○	○		
○		社会保障論Ⅱ	医療・介護保険制度の仕組みについて学ぶ。社会保障制度が果たす役割について考える。社会保障制度の重要性について知る。	2 後	30	2	○			○	○		
○		介護概論	介護の概念や対象及び理念、介護過程、認知症ケア、終末期ケアなどについて理解し、これからの高齢者支援に主体的に関わる力量を高める。	2 前	30	2	○			○	○		
○		障害者福祉論	障害（障碍）者を取りまく現状を理解する。障害（障碍）者に関連する法律の基本的理解を目指す。	2 後	30	2	○			○	○		
○		児童・家庭福祉論	児童やその家族が置かれている現状を理解する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		保健医療	医療と福祉との関わりについて学ぶ。保健医療サービスに携わる専門職の役割を理解する。社会福祉士の業務を把握する。	1 後	30	2	○			○	○		
○		社会調査法	社会調査の代表的な調査技法である統計調査法と事例調査法の概要を学ぶ。	2 後	30	2	○			○	○		
○		地域福祉論	地域福祉の基本的な考え方について学ぶ。地域に存在する社会資源の把握と活用方法を理解する。地域福祉推進に関わる組織・機関を知る。	3 前	30	2	○			○	○		
○		公的扶助論	公的扶助制度の中核となる生活保護制度の概要を理解する。生活保護制度の基礎知識を習得する。	2 前	30	2	○			○	○		

○		福祉行財政と福祉計画	社会福祉の法制度と福祉計画の関連、国と地方自治体との関係、福祉行政のしくみ、財政の現状について理解する。	3前	30	2	○			○		○		
○		児童心理入門	乳児期・幼児期・児童期における認知機能の発達について理解する。	1前	30	2	○			○				○
○		社会福祉特講 I	レポートを作成する上での基本的なルールを学習し、実際に書いてみる。	1前	30	2	○			○		○		
○		障害児教育論	障害児教育と福祉のあゆみ、障害について理解するとともに、社会参加、自立支援について考える。	2前	30	2	○			○				○
○		精神医学	代表的な精神疾患である気分障害、統合失調症などの特徴を学び、地域における支援体制を理解する。	3前	30	2	○			○		○		
○		就労支援	障害者を取り巻く就労の状況、支援、制度のしくみを学習する。	3前	30	2	○			○		○		
○		精神保健福祉援助演習 I	精神保健福祉士の自己覚知の重要性について考える。	3前	30	2	○			○		○		
○		死生論	安楽死や自殺など、生命の尊厳を考えるとともに、宗教観、倫理観についても考察する。	1後	30	2	○			○		○		
○		中国の文化と言語 I	中国の文化、経済、生活様式等を知る。	1後	30	2	○			○		○		
○		ソーシャルワーク演習Ⅲ	個別援助（ケースワーク）の展開過程について学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○		ソーシャルワーク演習Ⅳ	ソーシャルワーク実践における重要ポイントを把握した上で、レポートにまとめる。	1後	30	2	○			○		○		
○		ソーシャルワーク演習Ⅴ	集団援助（グループワーク）の定義、原則、展開過程を学習する。	2後	30	2	○			○		○		
○		法学演習	教育を受ける権利やプライバシー権などについて、判例を交え考察する。	2後	30	2	○			○		○		
○		ケアマネジメント演習	ケアマネジメントの基本的技術を理解し、他職種との連携の重要性について考える。	2後	30	2	○			○		○		

○		精神保健学	アルコール依存や薬物依存などの個別的な問題を取り上げ、その対応について考え発表する。	2 後	30	2	○			○	○		
○		評価実習事前指導	評価実習について、必要な知識、実技の確認をする。	3 後	30	2	○	△		○	○		
○		就職対策	就職活動に必要な基本的な知識を身につける	3 後	30	1	○			○	○		
○		国家試験対策講座	作業療法士国家試験における出題率の高い領域について問題を解く。	4 後	270	18	○			○	○		
合計				科目	4095単位時間(207単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。